

生き生き消防団

幸田町消防団

「平成20年8月末豪雨を体験して」

愛知県額田郡幸田町消防団
団長 鈴木 巨裕

1 はじめに

幸田町は愛知県の中南部に位置し、中部圏の中心都市・名古屋市から45km圏内にあり、北は岡崎市、西は西尾市、南東は蒲郡市などと接しています。

東西に10.25km、南北に10.55km、面積は56.78km²です。

東部の遠望峰山の439mを最高に東部と南西部に100m～400mの丘陵が続き、広田川を中心に平野が広がっています。

人口37,265人、13,011世帯（平成21年4月1日現在）で温暖な気候に恵まれ、緑豊かな自然に抱かれた美しい町です。

2 消防団の組織概要

幸田町消防団は定数147名です。毎年新入団員の確保には苦慮していますが、欠員を生じることなく現在も定数を維持しています。組織体制は消防団長1名、副団長1名、分団長4名、副分団長4名、部長12名、班長12名、団員113名の精鋭部隊です。

分団は町内を4つの区域に分け管轄する4分団2部制で、消防詰所8箇所、消防ポンプ自動車4台、可搬ポンプ積載車4台を配備しています。

また、今では珍しい^{はしこ}階段を各分団に1基装備し

ています。

階段は団員の手作りで、秋から冬に掛けて竹堀を行い、油抜きをしたあとに乾燥させ、1年程ねかせておきます。乾燥させた竹、木材、ロープ等を使用し組み立てます。出来あがった階段は3大行事の競練会・観閲式・出初め式等で階梯操法を披露する際に使用しています。この階梯操法は先輩達から受け継いだもので、これからも伝統を守り後世まで継承していきたいと考えています。

3 消防団の主な活動

当町消防団は、火災出動、行方不明者の捜索、水防活動などの災害活動の他に行事として、観閲式・出初め式、競練会を実施しています。

春先に行われる競練会は独自のもので、階梯操法、小型ポンプ実践操法、ポンプ車実践操法、合同（小型ポンプ・ポンプ車）実践操法の4部門で構成し、実戦操法の部ではコース内において障害物を排除しながらホースを延長し標的を倒すまでの迅速性、確実性、安全性を競い合うものです。この競練会で養った知識・技術は団員相互の連携をより確実なものとし、災害現場における成果を十分に発揮しており、当町消防団の原動力のひとつとなっています。

4 平成20年8月末豪雨を体験して

平成20年8月29日～30日にかけて総雨量404mm、最大時間雨量は116mmに達する未曾有の豪雨が本町を襲いました。これは、平成12年の「東海豪雨」以来の大水害であり、甚大な被害をもたらしました。

8月29日（金）午前2時8分、真夜中に全団員を招集して非常配備の体制をとり、消防団長である私は消防本部に急行し、情報の収集を行い各分団への活動指示を行いました。各分団は、管内の警戒活動、土のうによる水防工法や排水活動、床上浸水により被災した地域住民の安否確認を行いました。

夜明け近くになり、道路冠水により車両1台が水没しているとの情報を受けたので、全消防団車両による冠水道路の排水活動を行ないました。排水作業により徐々に姿をみせた車の中には幸いにも閉じ込められた人影はなかったので、安心しました。約6

時間に及ぶ作業を終了した頃には、既に正午を過ぎていました。その後、一旦雨は小康状態となったので、団員には自宅待機を指示しました。

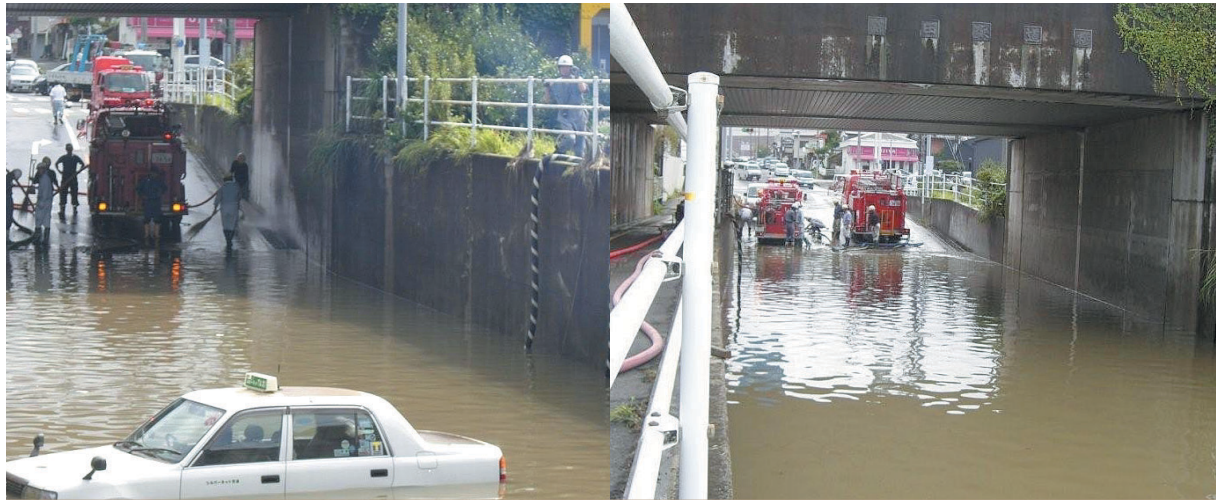
翌30日の午前中から再び雨が激しくなったので、午前11時に再度、全団員を招集し、各地域での水防活動を展開しました。夕方になり、決壊した河川からの濁流が周辺の集落を襲い、冠水により集落が孤立する危険性があることから地域住民に避難勧告が出されたので、団員は住民の避難誘導を行うとともに消防職員や地域住民と連携して、負傷者を出すことなく全員無事に避難を完了しました。

この豪雨の中での活動は、前日の8月29日午前2時8分から翌日30日の午後10時までの2日間、時間にして42時間におよびました。

この豪雨の中で危険な現場に身を置き、懸命に活動する団員の姿勢を目の当たりにした消防団長である私は、地域に根ざした消防団の必要性を再



▲愛知県地方をおそった豪雨災害（一面に水に浸っている田畑や家屋）



▲道路に冠水した水を消防自動車のホースにより排水
(後方手前が消防団の車両)

認識するとともに有事などの際も消防団の役割が重要であることを痛感しました。

5 おわりに

全国各地で年々団員確保が困難を窮めています。当町消防団も例外ではありません。147名の定数は幸いにも保たれていますが、団員確保は重要な課題となっています。今後とも団員の確保

に、努めて行く所存であります。

昨年の豪雨を経験した私は、これまで以上に地域に根ざした消防団を目標に掲げ、子供達を通じ消防への理解を深めてもらうため「防火パレード」の実施や高齢者の住まいを訪問し、「住宅用火災警報器の設置」などのお手伝いのできたらと考えております。

消防団は規律厳正を本分とする組織であり、組織力・決断力・包容力が必要とされ災害と戦うための能力が求められるなど厳しい組織であり、団員には負担が強いられます。

しかし、消防団活動を通じ多くの達成感、充実感を経験した団員は退団後、地域のリーダー的な存在となっています。消防団は地域コミュニティ形成の人作りの場所としての役割も担っていると思います。

皆さん…、消防団は地域にとって身近な欠けがえのない存在であります。町中での声掛け運動などから環境作りをサポートし、地域発展の輪を広げ、伝統を継承し愛される消防団を一緒に目指しましょう！



▲階梯操法